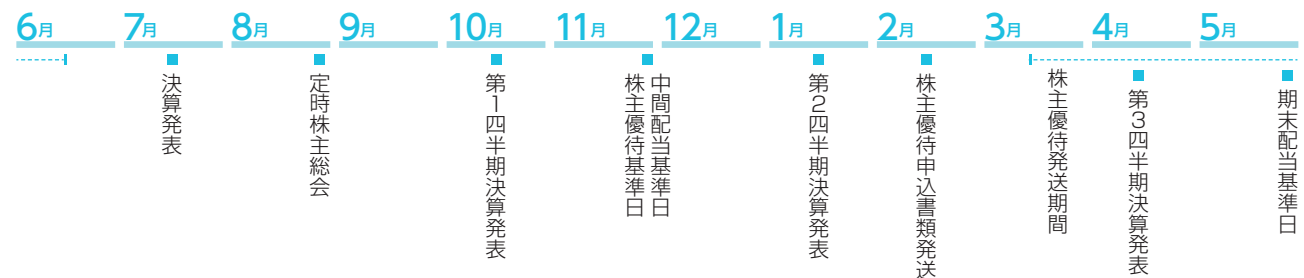


2018.6.1-2019.5.31

株主メモ

事業年度	6月1日～翌年5月31日	公告の方法	電子公告の方法によります。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
定時株主総会	8月	公告掲載URL	https://www.pharmarise.com/
基準日	5月31日	証券コード	2796(東証一部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話:0120-232-711(通話料無料)		

年間スケジュール(予定)



ファーマライズホールディングス株式会社

〒164-0011 東京都中野区中央一丁目38番1号 住友中野坂上ビル
TEL 03-3362-7130 FAX 03-3362-7190
<https://www.pharmarise.com/>



ファーマライズホールディングス株式会社

株主通信 令和元年5月期

株主の皆様へ

みなさまに信頼される店舗づくり

Top Interview

力強く成長する経営基盤の構築・事業の強化、拡大

グループ体系・グループ店舗数の推移・都道府県別出店状況

Topics…「継続支援プログラム」の展開／第10回学術大会を開催 ほか

連結決算概要

個別決算概要

会社概要

株主メモ・年間スケジュール



証券コード 2796

To Our Shareholders

株主の皆様へ

みなさまに信頼される店舗づくり

——「かかりつけ薬剤師・薬局」「地域医療」「健康サポート薬局」——



代表取締役会長
大野 利美知

当社グループの体制強化

当社グループのコア事業である調剤薬局事業においては、医療費抑制等の社会的要請を背景に後発医薬品の使用拡大及びセルフメディケーションに対する取り組み強化、並びに平成28年10月に厚生労働省の発表した「患者のための薬局ビジョン」への対応が求められる中、周辺業種からの参入により競争が激化すると同時に、平成30年4月の診療報酬・薬価改定の影響は大変厳しいものとなっており、一層の経営努力が求められる環境となっております。

こうした中、当社グループは平成30年11月にアスパラントグループ株式会社と、同社が運営・管理するAG2号投資事業有限責任組合と資本業務提携契約を締結し、第三者割当により発行される新株式及び転換社債型新株予約権付社債の発行をおこないました。

アスパラントグループ株式会社は、平成24年10月5日に設立され、潜在的な競争力のある国内企業に投資し、経営者と共に業績改善・成長を支援する会社であり、大手企業、プロフェッショナルチーム、公的機関等で長年経験を積んだメンバーで構成

されております。

これにより財務体質の強化のみならず、当社グループが経営課題と考えていた既存事業の改善・効率化、M&A及び新規出店の強化、経営管理体制の強化等に、同社と速度感を持って取り組んでおります。

また、当社の経営体制の一層の強化を図るために、当社役員としてアスパラントグループ株式会社から新たに2名を迎え入れました。この新体制は、当社グループの更なる発展に寄与していくものと考えております。

地域密着の「かかりつけ薬剤師・薬局」としての成長

当社グループは、長年培ってきた地域に密着した活動をより強力に推進し、国が進める「かかりつけ薬剤師・薬局」の活動体制を強化しております。

当社グループにおける「健康サポート薬局」は34店舗になりました。「健康サポート薬局」は、「かかりつけ薬剤師・薬局」の基本的な機能に加え、地域住民による主体的な健康の保持増進を積極的に支援する機能を備えた薬局として、厚生労働大

臣が定める基準に適合した薬局が標榜できるものです。全国に約5万9千軒ある薬局の中で「健康サポート薬局」はまだ1,355軒（平成31年3月29日時点）であり、当社のシェアは2.5%と先進的に取り組んでおります。

さらに、当社では、昨年10月より地域住民の健康寿命の延伸を支援する「継続支援プログラム」を始動しました。これを推進するために、薬剤師や登録販売者にも食事や運動など予防に必要な基本知識を学んでもらう、当社独自の「ヘルシーライフアドバイザー」制度を作りました。地域の皆様に対して、従来の処方せん調剤業務にとどまらず、（処方せんを持たない方も対象に）「健康寿命の延伸」を積極的に支援してまいります。

これらの施策を通じて、昨年10月に開催した当社グループ社内学術大会のメインテーマであった、患者・地域住民・医療・介護関係者・社員同士等の「信頼」につながり、更なる発展に寄与していくものと考えております。株主の皆様には引き続き変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

力強く成長する経営基盤を構築し、 調剤薬局事業の強化、物販事業の拡大を推し進めます

Q 新体制となったこの一年を振り返って いかがでしたか。

今般の調剤報酬改定により当社グループのコア事業である調剤薬局事業においては、国や社会が求める「薬局・薬剤師の責務や機能」に対して、進化を遂げ、順応していかなければ、やがて淘汰されてしまう程のうねりが起きております。当社では、こうした事業環境の急激な変化に迅速に対応していくための体制構築の一環として、昨年8月より私が代表取締役執行役員社長を務めてまいりました。

当社グループでは、平成30年11月8日に「中期経営計画SFG (Steps Future Growth) 2021 ～成長を目指した経営基盤の構築」を公表し取り組んでまいりました。

具体的には、健康サポート薬局の継続的な取り組み、地域住民向けの「継続支援プログラム」の始動、当社独自の「ヘルシーライフアドバイザー」制度の導入等による調剤薬局事業における競争力の強化をおこなってまいりました。また、新規処方せんを獲得するために、地域医療の事業拡大、電子お薬手帳（メール処方せん受付サービス）の利用を推進し、規模の拡大を加速化するためにM&A・PMI推進室を設置、物販事業の拡大及び収益性を向上するために、「継続支援プログラム」活動を通じたセルフケア商品やヘルスケア商品の提案によるかかりつけ薬局の推進との相乗効果の創出、全国的なコンクール等の継続的な開催もおこなっております。さらに、店舗運営会社を集約することによるグループ形態の変革、12のプロジェクトチーム結成・実行による組織・コスト構造

の見直しも推進しております。

引き続き、経営基盤の構築を推進するとともに、企業の基盤でもあるコンプライアンス遵守を徹底し、組織の強化と活性化を図り、足腰の強い企業グループを形成してまいります。

Q 当期（平成30年6月1日～令和元年5月31日）の 業績について教えてください。

当期におきましては、売上高は5.2%減収の517億28百万円、営業利益は45.7%減益の6億40百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は23百万円の黒字転換で着地いたしました。

前期対比では、コア事業である調剤薬局事業において、昨年4月の調剤報酬及び薬価改定の影響を強く受けたことにより、前期比減収減益となりました。減収額25億円のうち改定の影響は約20億円と試算しております。

また当期は、既存店舗において、かつてないほどに主応需医療機関の移転等の影響を強く受けたことが特徴としてあげられます。この結果、処方せん枚数が前期比で約55,000枚の減少となりました。当社グループでは利益率改善のため、パフォーマンスが低い店舗の閉局を進めている反面、新規出店も継続して推進しております。なお、過去2期間に開閉局した店舗が当期の処方せん枚数に与えた影響は45,000枚強の増加となっております。

一方で、原価のコントロールは順調に進展いたしました。医療用医薬品の仕入条件は、前期比では悪化したものの想定範囲となりました。また人件費につきましても、中途採用の抑制ができた

代表取締役執行役員社長

秋山 昌之



ことで、計画を下回ることができました。

以上から調剤薬局事業は前期比では大きく減収減益となったものの、計画対比では減収増益となりました。この増益効果により親会社株主に帰属する当期純損益は当初の赤字見通しから黒字で着地することができました。

また物販事業につきましては予算未達ではありましたが、前期比で80百万円強の増益となりました。薬ヒグチ&ファーマライズ社は、1億円以上の利益改善となり、持株会社である当社のコスト負担部分である費用配賦前の営業損益で黒字化するなど、セグメント利益の改善に貢献しました。

Q 次期（令和元年6月1日～令和2年5月31日）の 業績予想について教えてください。

売上高につきましては、前期比1.5%増の7億79百万円増収となる525億8百万円を予想しております。調剤薬局事業では4億77百万円の増収を予想しております。これは、「調剤薬局事業の競争力強化」策による新規店舗の出店、既存店での処方せん枚数増等を見込んでいるためです。

続いて、利益面においては、営業利益は、前期比2億18百万円、34.1%の増益となる8億58百万円を計画しています。これは、調剤薬局事業における売上原価コントロールと、物販事業の収益改善によるものが寄与する一方、中期経営計画における「組織・コスト構造の見直し」の一環として、グループ再編やシステム導入等に伴い一過性の費用増加も見込んだ上での計画となっております。

以上から、経常利益は1億96百万円増益の7億87百万円、親会社株主に帰属する当期純利益については81百万円増益の1億4百万円を予想しております。

Q 最後に次期に向けて注力することについて 教えてください。

次期は、中期経営計画に掲げております、力強く成長する経営基盤を構築するために、①調剤薬局事業における競争力の強化及び新規出店並びにM&Aの加速、②物販事業の拡大及び収益性の確保、③業務手法とグループ組織構造の見直しによる収益構造の改善を強力に推進するとともに、資本業務提携したアスバラントグループ株式会社と共に、営業力強化、事業会社の統合及びコスト構造改善をおこない、厳しい環境の中でも収益を維持してさらに成長するための事業構造基盤を構築してまいります。

当社グループの本業は調剤薬局事業であることは言うまでもありません。したがって、国の方針でもある「立地から機能へ」「対物業務から対人業務へ」「バラバラから一つへ」に示されるような、薬局が医療機関に近いという「立地」に依存した存在から、地域包括ケアシステムの中で地域に密着した「かかりつけ薬剤師・薬局」として、我が国の医療の一役を担うことができる存在となれるように成長させることが大事であると考えております。

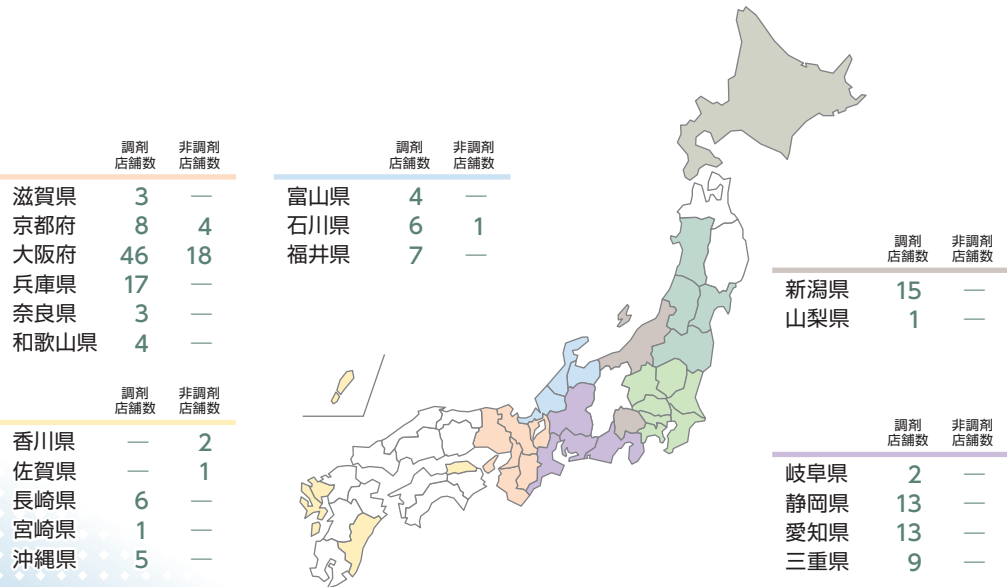
グループ店舗数※の状況

※連結子会社、持分法適用会社の店舗数合計

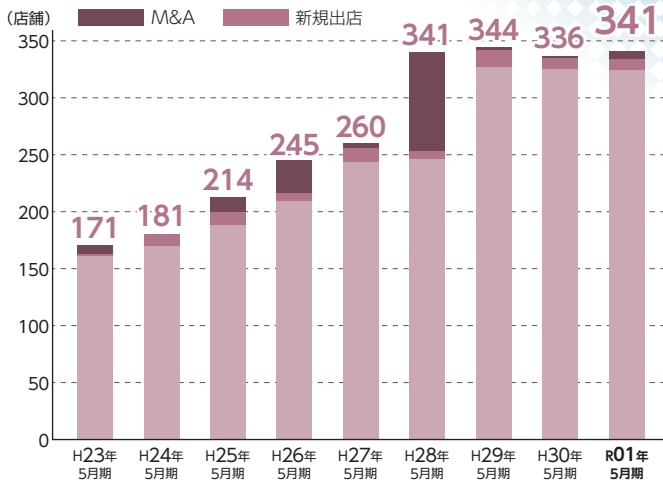
■グループ体系（令和元年5月末現在）

連結子会社	調剤店舗数	非調剤店舗数
ファーマライズ株式会社 （株式会社レイケアセンターを含む）	182	1
関西ファーマライズ株式会社	32	—
新世薬品株式会社	15	—
株式会社寿データバンク	—	—
株式会社ドゥリーム	5	—
薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社	12	50
株式会社エム・シー	6	—
株式会社ミュートス	—	—
株式会社ケミスト	6	—
持分法適用会社	調剤店舗数	非調剤店舗数
株式会社メディカルフロント （所有割合42.1％）	—	—
株式会社ヘルシーワーク （所有割合35.0％）	32	—
合 計	341店舗	290
		51

■都道府県別出店状況（令和元年5月末現在）



■グループ店舗数の推移



TOPICS —トピックス—

■「継続支援プログラム」の展開

地域住民に対して健康寿命延伸を継続的に支援する、当社独自の取り組み「**継続支援プログラム**」。現在までに15店舗で開催していますが、健康イベントを活性化させる**HEA (Health Event Activation) アンバサダー**が中心となり、令和2年5月末までに約30店舗まで開催店舗を増やす計画です。

同プログラムを推進する社内認定資格・**ヘルシーライフアドバイザー**の第1弾「骨粗しょう症プログラム」合格者数は計560名まで増え、第2弾となる「糖尿病プログラム」の認定試験も始まっています。



継続支援プログラムでのカウンセリングの様子

■第10回学術大会を開催

平成30年10月21日、**社内学術大会**を開催しました。テーマを「**信頼—かかりつけ薬剤師・地域医療・健康サポート薬局—**」とし、未来社会を支える健康寿命の延伸を薬局が担うためにはどうすればよいのか、特別講演やシンポジウム、また社員がそれぞれの立場で考え研究した研究発表を通じて、全社員で共有しました。

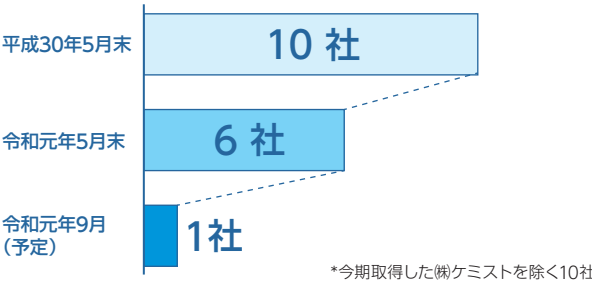
当社では設立間もない頃から、社員や外部の医療関係者の研鑽の場として勉強会を開催してきました。「学術大会」と名を変えてから、今回が10回目の開催となりました。



学術大会シンポジウムの様子

■組織・コスト構造の見直し

中期経営計画における「組織・コスト構造の見直し」の一環として、既存の店舗運営会社*の統合を進めております。



■開局・出店12店舗（連結ベース）

令和元年5月期は、**調剤薬局11店舗、ドラッグストア1店舗**を開局・出店いたしました。

調剤薬局店舗	ドラッグストア店舗
平成30年	平成30年
6月 トリム薬局前橋店(群馬県)	6月 北千里店(大阪府)
7月 北野薬局(北海道)	
9月 三郷店(埼玉県)	
10月 ビーチ薬局(大阪府) 6店舗(長崎県) ※取得	
令和元年	
5月 千歳北陽店(北海道)	

連結決算概要

連結貸借対照表について

資産合計は前連結会計年度末残高に対し47百万円の減少となりました。これは現預金が7億49百万円増加したこと等で流動資産が6億58百万円増加した一方、不採算店舗等に対する減損損失計上等で有形固定資産が2億12百万円減少、のれんの償却が進んだこと等で無形固定資産が4億66百万円減少したこと等により固定資産が7億6百万円減少したことによります。

負債合計は前連結会計年度末残高に対し42百万円の減少となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が6億66百万円、買掛金が4億33百万円、未払法人税等が2億39百万円、それぞれ減少したこと等で流動負債が14億22百万円減少した一方、ファンドに対する社債が13億28百万円増加したこと等により固定負債が13億79百万円増加したことによります。

純資産は前連結会計年度末残高に対し5百万円減少しました。この主な要因は、新株の発行に伴う資本金、資本剰余金の増加はありましたが、当社配当金支払による利益剰余金が減少したことによるものです。

連結損益計算書について

売上高につきましては、主に、調剤薬局事業が平成30年4月の調剤報酬・薬価改定の影響及び医療機関移転等の影響を受けたこと、物販事業が不採算店舗を閉店したこと等により、前連結会計年度に対して28億33百万円の減収となりました。

一方、利益面では原価のコントロールが順調に進展し、人件費等が計画を下回ることができ、営業利益は前連結会計年度に対して5億38百万円減少、経常利益は5億1百万円減少でありましたが、特別損失において減損損失計上額が4億90百万円減少したこと等で、親会社株主に帰属する当期純利益は23百万円と黒字転換となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書について

営業活動の結果増加した資金は前連結会計年度に対して4億34百万円減少しました。これは税金等調整前当期純利益4億円、減価償却費5億31百万円、減損損失1億34百万円、のれん償却額6億92百万円を計上し、売上債権が2億28百万円減少した一方で、仕入債務が5億6百万円減少し、法人税等の支払額が684百万円となったことによるものがあります。

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科 目	令和元年5月期 (令和元年5月31日現在)	平成30年5月期 (平成30年5月31日現在)
資産の部		
流動資産	9,601	8,942
固定資産	14,608	15,315
有形固定資産	6,290	6,503
無形固定資産	5,175	5,642
投資その他の資産	3,141	3,169
繰延資産	8	7
資産合計	24,217	24,265
負債の部		
流動負債	9,347	10,769
固定負債	9,250	7,870
負債合計	18,597	18,640
純資産の部		
株主資本	5,287	5,279
資本金	1,229	1,174
資本剰余金	1,307	1,252
利益剰余金	2,749	2,852
その他の包括利益累計額	4	17
新株予約権	173	140
非支配株主持分	153	187
純資産合計	5,619	5,624
負債純資産合計	24,217	24,265

投資活動の結果使用した資金は前連結会計年度に対して26百万円減少しました。今期が前期対比で大きな投資活動が無かった一方で、有形固定資産売却等の増加等があったことによります。

財務活動の結果増加した資金は3億54百万円(前期は8億94百万円の支出)となりました。これは長期借入れによる収入が22億50百万円、社債の発行による収入が14億78百万円、株式の発行による収入が1億3百万円あった一方で、長期借入金の返済による支出が29億60百万円、社債の償還による支出が1億54百万円、リース債務の返済による支出が2億23百万円、配当金の支払額が1億25百万円となったことによるものがあります。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	令和元年5月期 (平成30年6月1日から 令和元年5月31日まで)	平成30年5月期 (平成29年6月1日から 平成30年5月31日まで)
売上高	51,728	54,562
売上原価	44,386	46,612
売上総利益	7,342	7,950
販売費及び一般管理費	6,702	6,771
営業利益	640	1,179
営業外収益	132	109
営業外費用	181	195
経常利益	590	1,092
特別利益	7	1
特別損失	197	679
税金等調整前当期純利益	400	414
法人税、住民税及び事業税	391	609
法人税等調整額	18	13
当期純損失	△10	△208
非支配株主に帰属する当期純損失	△33	△179
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失	23	△28

連結株主資本等変動計算書(要約)

(平成30年6月1日から令和元年5月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	株主資本				その他の包括利益累計額			新株 予約権	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
平成30年6月1日残高	1,174	1,252	2,852	5,279	2	15	17	140	187	5,624
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	55	55		111						111
剰余金の配当			△126	△126						△126
連結子会社株式の取得による 持分の増減				—						—
親会社株主に帰属する当期純利益			23	23						23
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					△1	△11	△12	33	△33	△13
連結会計年度中の変動額合計	55	55	△103	8	△1	△11	△12	33	△33	△5
令和元年5月31日残高	1,229	1,307	2,749	5,287	0	3	4	173	153	5,619

個別決算概要

■ 単体貸借対照表 (要約)		
(単位:百万円)		
科 目	令和元年5月期 (令和元年5月31日現在)	平成30年5月期 (平成30年5月31日現在)
資産の部		
流動資産	3,482	2,661
固定資産	11,735	12,113
有形固定資産	224	225
無形固定資産	81	55
投資その他の資産	11,429	11,833
繰延資産	8	7
資産合計	15,226	14,782
負債の部		
流動負債	2,948	3,680
固定負債	7,863	6,934
負債合計	10,811	10,614
純資産の部		
株主資本	4,241	4,027
資本金	1,229	1,174
資本剰余金	1,297	1,241
利益剰余金	1,713	1,610
新株予約権	173	140
純資産合計	4,415	4,167
負債及び純資産合計	15,226	14,782

■ 単体損益計算書 (要約)		
(単位:百万円)		
科 目	令和元年5月期 (平成30年6月1日から 令和元年5月31日まで)	平成30年5月期 (平成29年6月1日から 平成30年5月31日まで)
売上高	608	618
売上原価	0	0
売上総利益	608	618
販売費及び一般管理費	362	335
営業利益	246	282
営業外収益	172	202
営業外費用	111	88
経常利益	307	396
特別損失	—	79
税引前当期純利益	307	317
法人税、住民税及び事業税	89	98
法人税等調整額	△11	△22
当期純利益	229	241

会社概要

■ 会社概要 (令和元年5月31日現在)	
設 立	昭和59年6月
社 名	ファーマライズホールディングス株式会社
資本金	1,229百万円
本店所在地	東京都中野区中央一丁目38番1号
主な事業内容	持株会社(調剤薬局事業などを営むグループ会社を統括する管理運営会社)
ホームページ	https://www.pharmarise.com/
主要取引銀行	株式会社三菱UFJ銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社横浜銀行 他
連結従業員数	1,823名(非常勤含む)
■ 役 員 (令和元年8月28日現在)	
代表取締役会長	大 野 利美知
代表取締役執行役員社長	秋 山 昌 之
専務取締役執行役員	松 浦 恵 子
常務取締役執行役員	大 野 小夜子
取締役執行役員	赤 松 優 仁
取締役執行役員	沼 田 豊
取締役(社外)	尾 中 哲 夫
取締役(社外)	渡 邊 則 夫
取締役(社外)	多 田 宏
取締役(社外)	原 知 己
取締役(社外)	中 西 雅 也
常勤監査役	小 高 芳 夫
監査役(社外)	榎 本 孝 之
監査役(社外)	戸 田 一 誠
■ 株式の状況 (令和元年5月31日現在)	
発行可能株式総数	31,398,000株
発行済株式総数	9,239,620株
株主数	9,877名

■ 大株主の状況 (令和元年5月31日現在)		
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ビックフィールド	3,015,000	32.6
中北薬品株式会社	396,000	4.3
株式会社バイタルネット	396,000	4.3
株式会社ほくやく	396,000	4.3
ファーマライズ従業員持株会	324,200	3.5
大野 小夜子	275,740	3.0
AG2号投資事業有限責任組合	182,400	2.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	163,900	1.8
エア・ウォーター株式会社	150,000	1.6
日医工株式会社	150,000	1.6
■ 主要仕入先		
アルフレッサ株式会社	中北薬品株式会社	
岩瀬薬品株式会社	株式会社バイタルネット	
株式会社スズケン	株式会社ほくやく	他
■ 主要な連結子会社 (令和元年5月31日現在)		
名 称	住 所	事業内容
ファーマライズ株式会社	東京都中野区	調剤薬局事業
関西ファーマライズ株式会社	大阪府大阪市	
新世薬品株式会社	兵庫県淡路市	
株式会社ドゥリーム	沖縄県沖縄市	
株式会社エム・シー	宮城県仙台市	
株式会社ケミスト	長崎県諫早市	医学資料保管・管理事業
薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社	東京都中野区	
株式会社寿データバンク	栃木県足利市	
株式会社ミュートス	大阪府大阪市	製薬企業等向けシステムインテグレーション事業